



「Endeavor～さらなる一步を踏み出すために」

校長

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」とはよく言ったもので、あっという間に2月に入り、先日は節分、そして立春と、寒さが厳しい中で春の足音も近づいています。3年生は卒業そして進路実現に向けて、1・2年生は学年末そして進級に向けてしっかりと頑張っています。また、1月に立ち上がった生徒会執行部も意欲的に活動しています。今月のタイトルは、先日決定した、令和7年の生徒会スローガンです。この「Endeavor(エンデバー)」という言葉を書き調べてみると、【(必死に)努力する、(熱心に)試みる、(…しようと)努める、心がける】という意味がありました。

今に満足せず、今以上に努力を続けよう、挑戦しよう、そしてよりよいものを創っていきましょう！

という生徒の心意気を感じています。この「Endeavor」を生徒とともに具現化し、鹿野中学校を前に進めていきたいと思えます。保護者の皆様、地域の皆様からもし機会がありましたら生徒に励ましの言葉をかけていただくと幸いです。今月もどうぞよろしくお願いいたします。



「1票足りないというのはすごくよかったと思います。」先日日米で野球殿堂入りを果たした「イチロー」(鈴木一朗)さんの言葉です。彼の活躍については、おそらく生徒よりも保護者の方や地域の方の方がよくご存じではないかと思えます。アメリカ野球殿堂入りを審査する投票で、100%の得票率で選出されるだろうと予想されていた彼が、そうでなかったことについて、先の言葉のように答えました。



そして、「やっぱり不完全であるというのはいいなと。」と言って次のように続けました。

生きていく上で、不完全だから進もうとできるわけで。そういうことを改めて考えさせられるというか、見つめ合えるというか、そこに向き合えるのはよかったなと思います。

「天才バッター」と言われた彼でさえ、どんなに努力を重ねても打率10割は達成できませんでした。今回、投票するすべての人が彼の名前を挙げるだろうと考えられていたけれど、そうはなりませんでした。完璧を求めつつ(期待されながら)、それができない自分をしっかりと向き合い、受け入れ、それで改めて自分を見つめることができる、向き合える(努力を続ける)ことができると彼は伝えたかったのかなと私は想像しています。後日、票を入れてなかった人をぜひ家に招待したいと話していました。きっと入れなかった理由を聞いて自分の生き方につなげていくのでしょう。



ここに他者の存在(友だち、お家の人、地域の方など)の大切さ、「人を大切にすること」の大切さがあるのだと思います。自分の良さに気付かせてくれるのも、自分の課題に気付かせてくれるのも他者の存在だと思えます。そして、自分の良さを伸ばし、課題の克服を助けてくれるのも他者の存在なしにはできません。だからこそ、私たちは自分も自分以外の他者の存在も大切にしないといけないうし、それぞれの良さをいかながら課題や弱点を補い合いながら生きているのだと思います。子どもも大人も支え、支えられながら、互いに成長できる学校でありたいとイチローさんの言葉から改めて感じたところです。



日々の学校生活の様子や鹿野学の取組を随時更新しています。

鹿野中学校ホームページをぜひご覧ください。

周南市立鹿野中学校-トップページ: <https://fa.fureai-cloud.jp/kanochu/>



1月の学校の様子をお伝えします

1月8日 生徒会引き継ぎ式・任命式

2学期始業式の後に、生徒会引き継ぎ式と新生徒会役員の任命式を行いました。新生徒会役員は少し緊張した面持ちで任命書を受け取り、決意を新たにしていました。続いて行われた引き継ぎ式では、旧生徒会役員一人ひとりに感謝状が贈られ、充実した表情で任期を終えることができました。

また、前生徒会会長から新生徒会会長へ、あいさつ運動のプラカードが手渡され、あいさつ運動を継続する決意表明もありました。



1月17日 わくわくインタビュー（2年生）

鹿野学の一環で2年生が地域の方々にインタビューを行いました。これは、鹿野で生きる様々な分野の人々にインタビューをする活動を通して、鹿野の現状や良さ、課題を具体的かつ多面的に捉え、それに対する自分の考えをもつことを目的として行いました。生徒たちは、3グループに分かれ、「大潮の里を守る会」「大潮田舎の店」「ふる里マルシェ」「鹿野の風プロジェクト」「山野草のえき保存会」「周平堂」「未来をつくる鹿野人KANOA」「ピュアライス研究所」の方々に現在の鹿野についてお話をいただきました。これを3年生になっての鹿野の未来の学習につなげていきます。

